

第 17 期中間決算報告について

スカイネットアジア航空株式会社(本社:宮崎県宮崎市、代表取締役社長:高橋 洋)の第 17 期中間決算(平成 25 年 9 月期)について、下記のとおり報告致します。

記

1. 運航実績および搭乗実績

※コードシェア販売分を除く

		当中間会計期間	前中間会計期間	前年通期
運航実績	定期運航予定便数	11,076 便	9,882 便	19,712 便
	定期運航便数	11,015 便	9,738 便	19,504 便
	欠航便数	61 便	144 便	208 便
	就航率	99.4%	98.5%	98.9%
	定時出発率	90.3%	93.7%	93.3%
搭乗実績	提供座席数 (前年同期比)	1,185,594 席 (117.9%)	1,005,434 席 (112.6%)	2,022,754 席 (108.5%)
	有償旅客数 (前年同期比)	805,893 人 (122.2%)	659,251 人 (120.4%)	1,345,873 人 (116.0%)
	L/F (前年同期 L/F)	68.0% (65.6%)	65.6% (61.3%)	66.5% (62.2%)

2. 路線別搭乗率(平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日)

※コードシェア販売分を除く

路線		L/F(前年同期値)	提供座席数 前年同期比	有償旅客数 前年同期比
東京線	一宮 崎	69.1%(66.1%)	103.1%	107.8%
	一熊 本	73.2%(65.7%)	120.4%	134.2%
	一長 崎	70.1%(61.8%)	104.6%	118.6%
	一鹿 児 島	70.3%(69.3%)	136.1%	138.0%
	一 大 分	58.9%(66.5%)	144.2%	127.6%
	小 計	68.8%(65.8%)	117.4%	122.7%
沖縄線	一宮 崎	60.7%(74.9%)	156.6%	127.0%
	一鹿 児 島	61.8%(66.2%)	143.9%	134.4%
	一 神 戸	48.8%(-)	-	-
	小 計	56.5%(61.6%)	126.0%	115.5%
全路線合計		68.0%(65.6%)	117.9%	122.2%

3. 平成 25 年 9 月期の業績(平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日)

(1) 営業実績

(単位:百万円)※未満切り捨て

	営業収入	営業利益	経常利益	当期純利益
25 年 9 月期 (前年同期比増減額)	17,720 (+2,539)	1,173 (+38)	1,308 (+436)	704 (△137)
24 年 9 月期	15,181	1,134	871	842
25 年 3 月期	30,655	1,945	1,843	1,101

(注)営業収入には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財務状況

(単位:百万円)※未満切り捨て

	総資産	純資産	自己資本比率	資本金
25 年 9 月期	13,851	4,804	34.6%	2,345
24 年 9 月期	10,539	3,295	31.2%	2,345
25 年 3 月期	10,759	4,219	39.2%	2,345

4. 財務諸表

(1) 貸借対照表

(単位:百万円)※未満切り捨て

期 別 科 目	前事業年度末 (平成25年3月31日現在)	当中間会計期間末 (平成25年9月30日現在)	増 減
(資産の部)			
I 流動資産	6,274	5,476	△798
(現預金)	(2,829)	(1,914)	(△915)
II 固定資産	4,484	8,375	3,890
III 繰延資産	0	0	△0
資産合計	10,759	13,851	3,092
(負債の部)			
I 流動負債	4,570	4,587	17
1 短期借入金	258	559	300
2 その他	4,311	4,028	△282
II 固定負債	1,969	4,459	2,489
1 長期借入金	363	3,287	2,924
2 その他	1,606	1,172	△434
負債合計	6,540	9,047	2,506
(純資産の部)			
I 株主資本	3,718	4,423	704
1 資本金	2,345	2,345	-
2 資本剰余金	411	411	-
3 利益剰余金	961	1,666	704
II 評価・換算差額等	501	381	△119
純資産合計	4,219	4,804	585
負債・純資産合計	10,759	13,851	3,092

(2) 損益計算書

(単位:百万円) ※未満切り捨て

期 別 科 目	前中間会計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当中間会計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	増 減
I 営業収入	15,181	17,720	2,539
II 営業費用	14,046	16,547	2,500
営業利益	1,134	1,173	38
III 営業外収益	4	163	158
IV 営業外費用	267	28	△239
経常利益	871	1,308	436
V 特別損失	3	580	576
税引前当期純利益	867	728	△139
法人税、住民税及び事業税	25	23	△1
当期純利益	842	704	△137

5. 業績等の概要

当中間会計期間(平成 25 年4月1日～9月 30 日)における我が国経済は、海外景気の鈍化が引き続き景気を下押しする傾向にありましたが、政府の経済対策、金融政策が下支えとなり、個人消費や企業の設備投資の持ち直しの動きがみられており、景気は緩やかな回復の傾向にあります。

しかしながら、航空業界におきましては、LCC の路線拡大による新規需要が創出される一方で、各社間での価格競争の激化が進行しております。また原油価格の高止まり、年明け以降の円安進行は、航空燃料費を中心とした航行関係費用の増加要因となるなど厳しい環境が続いております。

このような環境の中、当社は 2013～15 年度を対象とする新中期経営計画の経営ビジョン『新たな成長に向け、強いソラシドエアになる』のもと、引き続き安全運航を経営の最重要課題とし、高収益体質確立のため、ブランド浸透による売上規模の拡大に向けた施策やコスト構造の改善、生産性の向上を目的とした構造改革への取り組み等を実施しました。

運航面では、前中期経営計画期間(2011～12 年度)に引き続き、燃費改善やオペレーション品質、機内環境の更なる向上を目的として、新型機材(ボーイング 737-800 型機)を 2 機導入いたしました。運航実績は、機材更新による運航品質の向上と天候の安定により、当中間会計期間の欠航は 61 便に止まり、就航率は、99.4%(前年同期 98.5%)に上昇しました。しかしながら、定時出

発率は、羽田、那覇両空港混雑の影響もあり 90.3%(同 93.7%)と前年同期を下回っております。

営業面では、羽田発着の2次増枠を活用し熊本、鹿児島、大分線を各1往復増便するとともに、更なる成長を求めて、6月1日より神戸-沖縄線を開設し、関西圏への参入を実現しました。これらのネットワークの拡充に加え、「バーゲン 35」を始めとしたお客様にお求めやすい運賃の提供や機体活用プロジェクト(空恋プロジェクト)等によるブランド浸透の効果もあり、全路線の提供座席数 1,185,594 席(前年同期比 17.9%増)を上回って有償旅客数が 805,893 人(同 22.2%増)と伸びたことから、搭乗率は 68.0%(前年同期 65.6%)へと上昇しました。

損益面では、上記の営業実績の結果、営業収入が前年同期比 16.7%増の 17,720 百万円と大幅増収となったことにより、ドル建費用や航空機燃料費の増加等があったものの、営業利益は 1,173 百万円(前年同期比 3.4%増)を確保しました。

加えて外貨建て資産評価益等の営業外収益もあり経常利益は 1,308 百万円(前年同期比 436 百万円増)と増益となりました。しかし、旧型機材の退役を前倒し実行したことによるリース解約損(560 百万円)を特別損失として計上した結果、中間純利益は 704 百万円(前年同期比 137 百万円減)となりました。

なお、当中間会計期間におけるユニットコスト(営業費用/提供座席キロメートル)は、旧型機材の退役と新型機材の導入や各種コスト削減努力の効果等を反映し、前事業年度の 8.95 円から低下して 8.66 円となっております。

財政面では、従来のオペレーティングリースにより調達していた航空機1機を当年7月にファイナンスリースに切り替えて実質自社保有とした結果、総資産は 13,851 百万円(前事業年度末比 3,092 百万円増)に拡大しました。また、中間純利益の計上により純資産は 4,804 百万円(同 585 百万円増)に増加しております。

平成 25 年度下期は、引き続き円安の継続と資源価格の高止まり、競争の激化等厳しい経営環境が予想されますが、新型機材への更新を継続し、運航品質とサービス品質の向上による顧客満足度の向上を図りつつ、コスト競争力を更に高め、“強いソラシドエア”に変貌してまいります。

以上